

七宝中学校 武藤 紅羽

平和体験学習を通して、戦争の悲惨さを肌で感じることができました。原爆投下直後の壊滅的な惨状を、写真や資料から目の当たりにし、恐ろしく思いました。そして、被爆者がどれだけの思いで生きようとしていたのかが伝わってきました。戦争は起こすべきではありません。戦争を二度と繰り返さないために、わたしたちができることは何なのかを考えることが大切です。戦争を体験していない世代に語り継いでいく必要性を強く感じました。

七宝中学校 鷺津 菜春

今回の平和体験学習で、命の重みや人間の強さと優しさについて学ぶことができました。今夏は広島原爆投下から八十年が経つ大きな節目となりました。原爆を知る世代が少なくなる中、先人が原爆ドームなどを残した意味をしっかりと理解をし、わたしたちにはこの真実を伝え続ける責任があると強く感じました。沢山の苦しみに合いながらも人々と助け合い、生き抜いてきた姿は心から尊敬の気持ちを抱きました。平和を願う気持ちは、どんな武器よりも強い力を持っています。この平和を未来へつなぐのはわたしたちの役目です。

七宝北中学校 窪田 晃慶

「戦争って本当にあったんだ」それが広島を初めて訪れた僕の印象でした。教科書や画面上で知っていた原爆や戦争は決して過去のことではなく、今でもその悲しみや苦しみが続いているのを実感しました。それなのに、この瞬間も世界のどこかで争いが起きています。悲惨な日々を送っている人がいます。当たり前にごろせる日常こそが、平和なのだと思います。戦争を知らずに僕たちは育ちました。戦争を知らないままでいられるために何ができるのでしょうか。自ら考え行動していきたいです。

七宝北中学校 春木 咲亜弥

教科書では学べない悲惨な現実。それらをこの平和体験学習で学ぶことができました。また、私はこの体験を通じて抱いた疑問があります。それは、「原爆投下は正当化できるのか」ということです。被爆した人々は一瞬にして明るい未来を奪われました。しかし、違う角度から見ると意見は分かれるかもしれません。一番大切なことは、原爆について考え続けることです。この事実を正しく伝承し、二度と同じ道を歩まないようにすることこそが平和を守ることに繋がると 생각합니다。

美和中学校 鈴木 愛穂

「当時の広島は命の選別をしなければいけない状況だった。救護隊は、そこら中にいる重傷者には目もくれず、助けられる人だけを助けていた」と、被爆した方が涙ぐみながら仰っていたことが印象的でした。核爆弾はたった一発で多くの人の人生を壊します。二度と悲惨な状況を作らず、平和の尊さを伝え続けるためにも、私たちが声を上げなければなりません。被爆者が減り続けている今、小さな声でも途切れさせることなく繋げていくことが私たちの使命だと思います。

美和中学校 中村 圭吾

私が見た現代の広島は、綺麗な建物が並び立ち、道行く人々は笑い合う、そんな活気ある都市でした。しかし、原爆ドームは証明します。八十年前、建物が悉く破壊されたことを。被爆者は証言します。その日、道行く人々は焼けただれた皮膚で水を求めながら絶命していったことを。当たり前が当たり前でなくなる前に、私たちは平和の尊さを後世に伝えていかなければなりません。それが、唯一の戦争被爆国の国民であるわたしたちの責務なのではないでしょうか。

甚目寺中学校 土屋 七斗

原爆投下時に被災した路面電車の車両が「被爆電車」として今もなお市内を運行していることに私は驚きました。「悲惨な戦争の記憶、そこからの復興の記憶を絶対に忘れない」という市民の皆さんの強い意志を感じ、私は胸が熱くなりました。同時に、ごく普通の日常生活の中でこそ、平和について意識することが大事だと感じました。甚目寺中学校のそばにある戦時中の飛行場跡地など、より身近なことから平和を考えたいと強く思いました。

甚目寺中学校 吉川 湧創

今、広島市内を走っている路面電車。その内の数両は広島に原爆が投下されたその時も走っていました。原爆投下の僅か三日後、電車は再び広島市内を走り始めたのです。その姿は焼け野原となった広島に生きる多くの人々に希望を与えました。現在、世界各地では戦争が絶えず、わたしたちは痛ましいニュースを耳にします。しかし、だからこそわたしたちは世界平和に対する希望を探し続け、守り続け、伝え続けなければなりません。電車は今日も走り続けています。

甚目寺南中学校 石原 颯一郎

原爆投下から八十年後の今、僕は広島の地に初めて訪れました。写真越しでしか見たことがなかった原爆ドームを見て、単純に「すごい迫力だ」と思う反面、「原爆の恐ろしさ」というものを肌で実感しました。また、資料館や被爆者の話を聞いたりして、平和とは、戦争とは、原爆とは、人の命の儚さについて深く学び、今回の貴重な体験をできるだけ多くの人たちに伝えたいと思いました。そして、みんなで本当の平和について考え、行動していきたいと強く感じました。

甚目寺南中学校 佐々木 結衣

広島市には、涼しい風が吹いていました。路面電車が地面を滑り、沢山の人々が行き交っています。そんな中に佇む広島市産業奨励館・・・今は原爆ドームと呼ばれる建物を見たとき、それはいつまでも癒えない傷であることを痛感しました。原子爆弾や戦争は、あらゆるものに一生消えない傷を残します。この悲惨な現実の一体何が、何を生み出すというのでしょうか。現代を生きるからこそ、私たちは考え続けなければなりません。